

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900184		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム京都納所淀の家 1号館		
所在地	〒612-8279 京都市伏見区納所北城堀7番11		
自己評価作成日	平成29年10月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成29年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは利用者の尊厳と自由を大切に、施設の枠にとらわれない開放的な環境の中で職員と共に穏やかで明るい生活を送れるように支援しています。地域の方々との交流を図るために、地域の保育園・小中学校の子供たちと利用者との交流の機会を設け、地域社会に参加できるよう連携を深めている。小規模多機能・グループホーム共に年間行事を計画し、利用者が季節・文化を感じ楽しく生活できるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都市伏見区淀競馬場の近く、旧国道に面して建つ3階建てのオレンジ色の建物、小学生からオレンジハウスと愛称されている、開設満5年、小規模多機能型居宅介護事業所と併設、2ユニットのグループホームである。5年の実績として優れている点が2点ある。1点目は地域との連携を超えた地域づくりの取組である。運営推進会議に多彩な組織が参加、自主防災会との防災マニュアル作成、小学生の安全の取組、高齢者の居場所づくり等が進行し、利用者の半数は学区の人である。2点目は利用者が真の意味で「自分らしく」暮らしている。毎日の生活時間は自由、希望を言えば必ず実行してもらえ、「入りたい」と言えば毎日でも入れるお風呂、春らんまん弁当、七夕そうめん弁当等、食べたいものをつくる食事、利用者や職員の繕いや文直しをするテーラーだった人、塗り絵の色使いが格段に豊かになり、編物ができるようになった人等、ケアの効果が顕著である。まさにグループホームの神髄として実績を残している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を施設内で周知できるよう掲示し、共有実践へとつなげている。	法人の理念を踏まえ職員の話合いで、「その人が地域で自分らしく暮らす生活のパートナーとして支援します」と定め、施設内・広報誌等に掲示、年度ごとに話し合い確認している。利用者・家族には契約時に説明、運営推進会議では年度初めに説明、パンフレットは自治会館においている。地域との交流を積極的に図り、利用者が出かけると共に、地域からの来訪も多い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流会・自治会の行事参加により地域とのつながり、交流を行っている。	自治会に加入、自主防災会に参加している。利用者は近くを散歩し、コンビニに出かけて買物している。区民運動会や敬老会、防災訓練に参加している。地域交流会としてボランティアの銭太鼓の演奏会、ピノキオ保育園との交流会、洛水中学校吹奏楽部のサマーコンサートを開始し、地域の人や家族も参加してくる。子ども110番を引き受け、子どもたちの夏休みの安全に取り組んでいる。高齢者の相談窓口で電話や来訪がある。施設見学会を開催し、利用者と共に施設の説明や認知症の啓発等をし、地域のグループの参加者から好評で、ロコミから地域の人々の利用申し込みが増えている。	訂正：ぜに太鼓→銭太鼓 訂正：落水→洛水
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での勉強会や地域交流会による関わりの中で認知症への理解へとつなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多方面からの参加者も増え、意見や指摘等を踏まえサービス向上に活かしている。	利用者、家族、自治連合会会長、自主防災会会長、納所学区社協、納所小学校、ピノキオ保育園、金井病院地域連携室、居宅介護支援事業所ひだまり、あすかデイサービスセンター、淀地域包括支援センター、伏見区福祉事務所が委員となり、隔月に開催、議事録を残している。年度初めには理念や運営推進会議の説明をしている。事故や研修、行事等の報告のあと、意見交換している。「地域の高齢者の居場所づくり」をしてほしいという意見があり、サロンを開く予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区担当者との連携に加え、ケースワーカー担当者と連携を図り、協力体制を築いている。	伏見区とは報告を怠らず、常に連携をとっている。身寄りのない利用者については福祉事務所のケースワーカーと相談し、連携している。地域ケア会議に参加、情報交換している。認知症ネットワークに参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について書面明記・マニュアル作成・職員研修を実施、基本施錠しているが短時間でも開錠時間帯を設け取り組んでいる。	「身体拘束をしないケア」について契約書に明記、マニュアルを作成、職員研修をしている。職員は身体拘束11項目、やむをえず身体拘束をする場合の3要件を認識し、常にスピーチロックに注意している。玄関ドア、エレベーターはロックしている。非常階段に通じる非常口を日中の14時～16時、開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて認識・理解を深め虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生保対象者・身寄りのない方が後見人制度を多く利用している為、制度について話す機会もあり後見人との連携により活用支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろん解約時にも説明等を丁寧に行い、トラブルや苦情等の防止も含め、理解・納得されるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・行事の案内を行い参加へと促し、面会等も重なった場合に家族同士が交流できるように取り組んでいる。	家族には献立表とカラー写真満載で一言コメントが入った広報誌を毎月送付し喜ばれている。利用者の写真は毎年敬老の日にアルバムにして家族に進呈している。家族の面会は多く、毎週来る人もあり、少ない人でも毎月来ており、利用者の情報交換をしている。地域交流会や敬老会に参加する家族もあり、利用者と共に楽しんでいる。参加者は少ないものの家族交流会を開催している。昨年利用者や家族と京都水族館に出かけて好評で、家族の意見もあり、今年は八幡のさくらであい館に出かける予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例会議・各ユニットでのミーティング実施、担当・委員会活動等、また個々でも機会を設け反映している。	職員全員参加で月例会議を開催、運営や行事について検討している。職員は行事食の提案等、積極的に意見を言っている。ユニットでのミーティングではケース検討をしている。職員は居室担当の他、広報誌、防災、年間行事、オレンジクラブ、献立等の委員会に参加し、役割分担している。年度ごとに自身の目標を立て、管理者との話し合いで励んでいる。法人の研修は新採用研修と年3回の外部研修、当館での研修は毎月の月例会議で実施している。	訂正：年4回の継続→年3回の外部 訂正：臨機応変→毎月
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修・資格取得を促し、資格手当や賞与査定、自己評価などあり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修などの外部研修参加、法人内研修も月1回実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学により同業者との交流の場とし、地域周辺施設との連携も行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に施設での生活に慣れ親しめるように配慮し、コミュニケーションを積極的に行い信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族もしくは代理人やケアマネ・相談員等を通じて情報収集し要望等の把握を行い、今後の信頼関係を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から傾聴し抱えている問題点を把握することで、今必要としている支援順位を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする事を意識し、互いに気兼ねなく交流できるよう雰囲気づくりや信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や後見人等の存在や絆を大切に、利用者と共に支えていく信頼関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・手紙・電話等の連絡方法を取り、入居前後の人間関係が希薄しないように支援している。	障がい者が自分たちで作った製品を販売している店が20周年となり、大家である利用者に記念式典の招待状が来て、スーツを着た利用者と出かけている。式場で感謝状をもらった利用者は満面の笑顔である。広島に住む利用者の親類から手紙が来て利用者は喜んで、職員の支援により返事を書き、その後毎月のように手紙がやりとりされている。利用者のかつての職場の近くにある中華料理店から馴染み客だった利用者にごま団子の差し入れがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	クラブ活動や行事等、生活の中でも利用者間のコミュニケーションを促し席配置や隣人関係を考慮した支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への移行の際にも相談等に応じ適切なフォロー・対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や生活リズムを把握し家族等にも聞き取りなどして、利用者本位の希望や意向に沿えるよう努めている。	利用開始時には家族や利用していた居宅のケアマネジャーから利用者の情報を収集している。「他の人といろんなことをしながら楽しく過ごしたい」「スケッチなど好きなことをしながら暮らしたい」「夫と一緒に過ごしたい」「ゆっくり穏やかに過ごしたい」等、利用者のありのままの思いを聴取している。京都出身、高槻市に住んでいた、実家は農家、5人兄弟の3男、祖父母に可愛がられた、21歳で見合い結婚、夫は国鉄勤務、タイピストをしていた、子どもは一男一女等、生活歴を聴取し、記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染んだ生活道具などを使用することにより、今までに近い生活空間を維持。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間による利用者把握に努め、主治医との連携により心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申送りにて各位の問題点を抽出し、状況状態の変化に応じ、ユニットミーティングのケアカンファレンスにて検討、プランに反映させている。	ユニットリーダーが計画作成担当者となり、アセスメントし、介護計画の原案を作成し、ユニット会議で職員と検討している。介護計画は身体介護の項目が中心で、暮らしのなかの楽しみや生きがいは「行事参加」「レク参加」だけである。介護記録は介護計画の実施記録を簡単に書いているので、介護計画の評価につながらない。モニタリングは毎月実施、介護計画は3か月ごとに点検している。	介護計画は身体介護のみならず、どんな重度な利用者にも毎日の暮らしのなかの楽しみや生きがいを入れること、楽しみとは「行事」や「レク」という言葉ではなく、利用者に固有のその人だけのものであること、サービスの支援の力にはインフォーマルな人も入れること、介護記録は介護計画の項目ごとに実施した際の利用者の発言や表情を、拒否があった際にはその要因を書き、モニタリングの根拠となるようにすること、以上の4点が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護日誌の記録を通じて、情報を共有し利用者にあったケアへ繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生保対象者の方や身寄りのおられない方に対しては随時、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域学区の行事、自治会の会合等に参加し地域生活・社会参加、地域交流会の開催により地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を踏まえ、提携病院を中心に訪問診療・歯科等による連携を密に医療面での安心確保している。	協力医療機関である金井病院が利用者の入居前からのかかりつけ医であり、総合内科と神経内科の医師が毎月利用者を往診してくれる。家族同行のもと別の医師を受診している利用者もいる。歯科は訪問歯科医を利用しており、定期検診や治療をしてくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療看護師・医療連携看護師と共に連携し、主治医の指示のもと対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院による訪問診療をはじめ体調管理に関して、診療情報の共有・電話等の相談体制も整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的に施設ハード面・ソフト面にも終末期・看取りは難しい為、最終的には医療機関への移行の旨を家族に伝え了承を得て対応しているが、状況状態に合わせ医療機関・主治医と連携し支援している。	利用者の重度化や終末期に関して、かかりつけ医である金井病院の医師と常に相談し、終末期だとの判断が出た段階で、医師、利用者・家族とのカンファレンスを行っている。利用者・家族が希望し、医師と相談のもと、ホームで可能であれば看取りをする場合もある。職員も最期まで利用者を看たいという思いが強く、ターミナルケアに関する職員研修を実施している。昨年は2人の利用者を看送り、家族から感謝されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員までとはいかないが、施設内研修をはじめ外部研修も励行している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災への消防訓練では消防署参加、風水害(土砂災害)・地震への避難訓練も実施し、運営推進会議を通じ地域との連携を深め、訓練時は学区防災会の方も参加、協力関係を築いている。	消防署の協力のもと火事、地震、風水害を想定した避難訓練を実施しており、推進会議の委員も参加してくれる。火事は外へ、地震は頭を保護して様子を見る、風水害は3階に避難することになっている。地域の防災訓練に参加し、避難場所として指定されている小学校への避難訓練を行っている。地域の自主防災団と風水害について話し合いマニュアルを作成している。備蓄を準備し、ハザードマップを備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いを大切に、利用者寄りそった声かけを行い、人格や誇りを尊重し、プライバシーの確保に配慮した対応を心掛けている。	年長者である利用者の尊厳を守り、対応や言葉遣いに注意している。声掛けの言葉は利用者に適したものになるよう検討している。職員会議や申し送りの際は利用者のプライバシーに注意している。意思表示が困難になっている人にも毎日の暮らしのなかで自己選択ができるよう、現物を見せたり選択肢を用意して表情やしぐさを読み取るようにしている。これまでの習慣や家族の意見等で判断することもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを汲み取り選択して頂けるような関係づくりや、思いや希望を直接的に表現される方には実現可能な形で提案し、買い物や外出の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康保持・清潔保持に配慮しつつ、入浴・入床等のタイミングを一人ひとりのペースに合わせて行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を選ぶ際には職員がアドバイスしつつ、利用者を選んで頂き、希望の化粧品等を準備し、おしゃれができるように支援している。また準備等をされる家族へは、最近の好みや希望をお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は体調管理のため外部発注しているが誕生日や毎月リクエスト食・行事食を提供。片付け等、行える範囲で手伝って頂いている。	食事提供会社からカロリー値、栄養バランス点検した調理済のものが毎日配達される。利用者の嗜好や意見は毎月届けて対応してもらっている。肉と魚を交互に使い野菜の多い変化に富んだ献立である。おせち料理や雛祭り、土曜の牛の日等の季節食は法人から送ってくる。毎月1回は利用者と一緒に相談して献立を決め、職員と一緒に作っている。利用者は賑やかに会話をしながら食事を楽しんでいる。認知症による食事摂取に課題のある人にはさまざま工夫し、介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分共に摂取量などの管理を行い、食事形態・塩分調整・カロリー制限等を個々に応じたものを提供、職員も一緒に着席し食がすすむよう声掛け等を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力の応じて自己で出来る限り行ってもらい、出来ない所を介助。定期的な歯科でのチェックとポリドントによる清潔保持も実施。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日を通して排泄チェック・排泄パターンの把握、声掛け・誘導し定期的に排泄用品の見直しも行っている。	利用者の半数くらいの方は尿意があり、トイレの場所がわかっている。用心のために利用者はリハビリパンとパットを使用している人が多い。オムツ交換の方は2、3人である。パットやオムツの検討をし、そのときの状況に最適のものを使用している。退院後には排泄状態は改善している。運動、水分、食物により自然排便を目指している。困難な人には医師と相談しサプリメントを服用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の利用者には水分摂取と運動を勧めると共に、ドクターと連携し服薬等によるコントロールも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日を決めず利用者の希望や体調に合わせ、また清潔保持できるよう対応を行っている。基本的には安全確保の為、日昼での入浴となるが希望や状況に合わせ、夕方等に時間変更も行っている。	浴室は少し広めで車椅子対応が可能である。中央に個浴が据えてあり、介助が便利である。曜日等のスケジュールは決めず、午後の時間帯で利用者の「入りたい」の声に応じて支援している。お風呂好きの利用者は毎週4、5回入っている人もいる。入浴拒否の人にも種々工夫して支援している。ゆず風呂、しょうぶ湯を楽しんでいる。マイシャンプーを持っている人も多く、敏感肌や皮膚トラブルに備え、泡立ちがよく良い香りのボディソープは利用者に好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペース、体調に合わせて日中短時間での仮眠を勧める、夜間安眠できるように運動等を促すなど、個々に応じた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の内容・副作用等の薬説明書をファイルでいつでも確認できるようにしている。また服薬チェック表で服薬確認も行っている。薬剤師と連携し、薬局とも協力体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じた作業・家事の手伝い等を行い、日々の外出や行事などで気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族による外出や日々の散歩、また行事による季節ごとの外出レクリエーションを含め、希望や意向を汲取り個別に外出の機会を設け支援している。	朝食後利用者は毎日のように階下に降りてきて、散歩に行く人、日向ぼっこをする人、体操をする人等あり、ほとんど毎日のように誰かが近くの公園等へ散歩に出かけている。車椅子の人も毎週散歩に出かけるように支援している。城南宮への初詣、淀競馬場での花見、八幡市での紅葉狩り等、季節ごとのドライブはみんなで行っている。好きなおやつを買いたい、洋服を買いに行きたい、お寿司が食べたい、行きつけのヘアサロンに等、利用者の希望に添って職員と出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っているが、本人・家族要望時には買い物等で支援している。希望があれば個別に、買い物等に出かけ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があれば電話・手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃による清潔保持とリビングには利用者と共に作成した飾り絵や塗り絵、季節に応じた壁画などを掲示し居心地の良い、家庭的な空間作りを行っている。	各階のユニットに通じるエレベーターを出るとロビーとなり、下駄箱の上に折り紙や小さな飾りを置いている。中央にオープンキッチン付の居間兼食堂があり、窓が大きく明るい。食卓と椅子、いくつかのソファがあり、利用者の居場所となっている。廊下の壁には利用者と職員共同制作の大作の季節のちぎり絵、保育園児から進呈された大きな絵画等を飾り、季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブルの他、ソファスペースなど利用者同士で会話したり、テレビ鑑賞したりできる空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みもの馴染みのものを持ち込み、本人と相談しながら居心地の良い空間で過ごせるよう配慮している。	居室はクローゼットとベッドが設置されている洋間、窓が大きく明るい。利用者はチェスト、整理ダンス、テレビ等を持ち込み、気に入ったレイアウトをしている。仏壇に亡夫の位牌と写真を飾り、お参りしている人、三面鏡を持ち込み化粧品や櫛でおしゃれをしている人、壁に丁寧に仕上げた自作の塗り絵、誕生会にもらった色紙や敬老会の感謝状等を飾っている人、お気に入りの動物柄のクッションを大事にしている人、どの部屋もその人らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々、整理整頓を行い、安全に自由に行動できるよう工夫し、環境づくりを行っている。		